

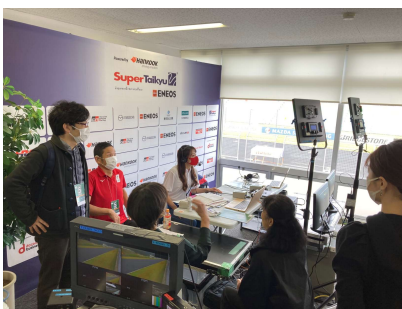
トヨタ・モビリティ基金アイデアコンテスト OHK 日本初「手話実況アカデミー」研修プログラムを提供

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は昨夏、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金（東京都文京区、理事長：豊田章男）が企画した2022年アイデアコンテスト「Make a Move PROJECT」に応募、一次審査で採択されたアイデアの実証実験を行いました。この実績をもとに今年度新たに「OHK手話実況アカデミー」を立ち上げ、同基金の協力を得ながら約3ヶ月にわたって研修を実施、昨日フジテレビにて最終プログラムとなる東京研修会を行いました。

■2022年実証実験

OHKは昨年10月、30年培ってきた手話放送のノウハウを生かし、誰もが当たり前前にスポーツ観戦を楽しめる環境の創出を目指して「情報から誰一人取り残されないモータースポーツ観戦を目指すプロジェクト」を実証実験として実施しました。このプロジェクトのうち特に反響が高かったのが、リアルタイム手話実況をつけた「ユニバーサル実況」です。これまで映像を眺めるだけだった聴覚障がい者が、初めて実況解説という存在を知り、手話実況を通じてルールや選手の様子など多くの情報を受け取ることができました。健常者と同じタイミングで観戦を楽しむことができたこの取組に対し、実験に参加した障がい者、審査員から大変高い評価をいただいた一方で、実況側の体面から1時間の手話実況が限界という課題が浮かびました。



実況URL：

<https://youtu.be/Elc0X2Lw5uM>



■2023年の新たな取組

昨年の実績と、課題解決のための新しいアイディア「モータースポーツ手話実況者の育成」が評価され今年1月、2022年アイディアコンテストのファイナリストに選出され、日本初となる「OHK手話実況アカデミー」を立ち上げました。



■手話実況アカデミー研修内容

第一期生は、昨年実際に手話実況を行った自転車競技デフアスリートの早瀬憲太郎さん他10名で、スポーツ競技や手話漫才など経験豊富なろう者や手話通訳者です。研修会は今年6月から約3ヶ月にわたり、岡山やオンラインなどで複数回にわたって開催されました。先月OHKで行われた岡山研修会では、早瀬さんや手話通訳者の体験談やレース映像の分析などの“学び”と、映像音声に合わせた実況体験やOHKアナウンサーによる実況指導などの“実践”に関するプログラムを学習しました。

そして昨日行われた東京研修会では、フジテレビアナウンス室の協力を得て、モータースポーツや球技スポーツに関する専門的で高度な実況技術を学習し、それぞれの知識向上や実践力強化などレベルアップに努め、約3ヶ月間の研修過程をすべて終了しました。



岡山研修会（OHK）の様子



東京研修会（フジテレビ）の様子

今後は2025年に日本で初めて開催されるろう者のオリンピック「デフリンピック」に向け、様々な競技実況に対応できる人材育成を目指し、学びと実践を重ねていく予定です。OHKはこの活動をきっかけに、障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツ観戦にアクセスできる環境を創出し、「情報から誰一人取り残されない社会」の実現を目指してまいります。